

九頭竜川水系 中流部ブロック 河川整備計画 の変更について

【 変更内容 】

①.

九頭竜川水系中流部ブロック河川整備計画では、大蓮寺川において想定される洪水を1本の地下放水路で本川九頭竜川に排水する計画(現川改修は行わない)としていましたが、開削工事による周辺環境への影響低減や事業期間およびコストの短縮を図るため、改修計画の見直しを行い、放水路を2本に分けるとともに現川の改修(断面拡幅)を行うこととし(2P 目参照)、今回、河川整備計画を変更することとしました。

②.

浄土寺川においては計画していた浄土寺川ダムが平成 20 年 6 月 5 日に完成したため、今回の変更に合わせて、河川整備計画の記載内容を変更することとしました。

③.

その他、環境に関する現状と課題、河川環境に関する整備の目標、河川環境の保全と維持管理に関する実施内容について、関係部局との協議を踏まえ、記載内容の修正を行いました。

【 補 足 】

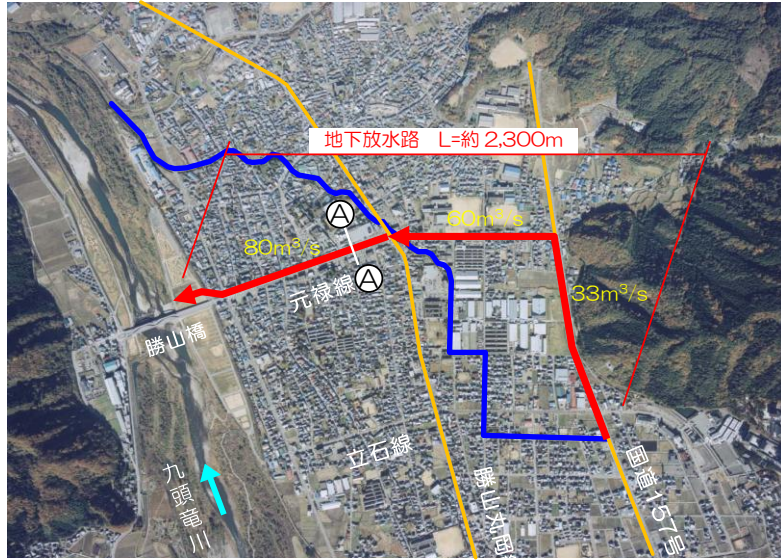
中流部ブロックの他河川(九頭竜川、河内川、南河内川)の計画は変更となりません。

大蓮寺川治水計画の変更(九頭竜川水系中流部ブロック河川整備計画) 変更概要

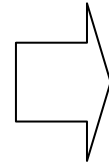
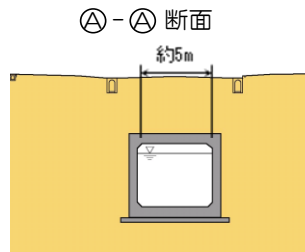
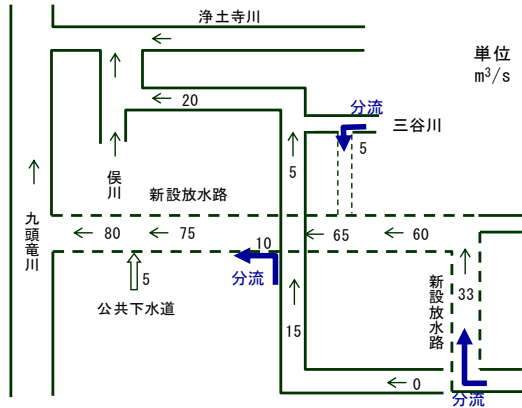
●現在の計画

計画規模: 50年確率

改修計画: 国道157号と市道元禄線の地下放水路を建設



流量配分図

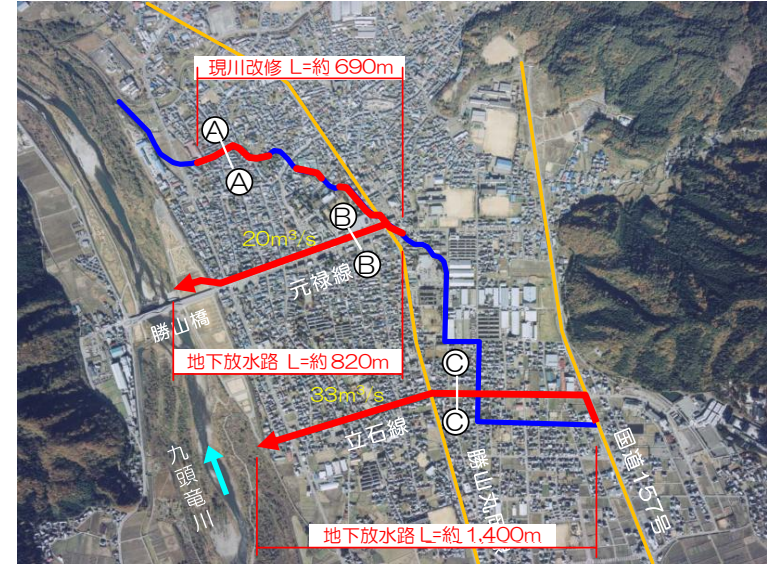


●見直しの変更計画

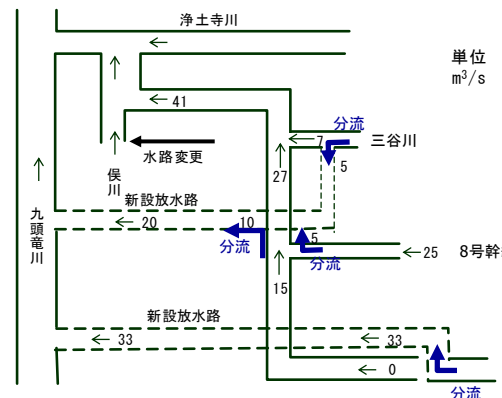
計画規模: 50年確率

改修計画: 市道元禄線と市道立石線に地下放水路を建設

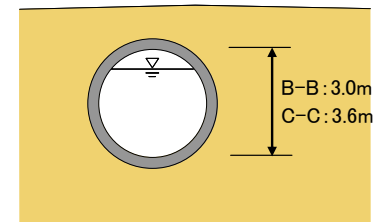
現川は局部的に低水路や河床掘下げにより拡幅を行う



流量配分図



②-②断面、③-③断面



【課題】

- ・工事に相当な期間を要するために効果が発現されるまでに時間がかかる
- ・開削工事(道路の上からの工事)となるため、交通規制等による周辺地域への影響が大きい。
- ・コスト縮減。

洪水を現川と2本の放水路に分流することで放水路規模を小さくでき、整備期間が短縮される。また半分以上の区間を非開削工法にて施工できるため周辺地域への影響が緩和される。